

DNSControlやoctoDNSを利用した ゾーンデータの引っ越し方法の紹介

- DNS Summer Day 2025(2025年6月27日)登壇資料
- 所属:さくらインターネット株式会社
- 氏名:滝澤隆史

自己紹介

- 氏名: 滝澤隆史
- 所属: さくらインターネット株式会社
 - さくらのクラウドの中の人をやっている
- DNSとの関わり
 - 趣味として何となくDNSで遊んでいる人

概要

“DNS as Code”のツール(DNSControlやoctoDNS)を利用したゾーンデータの引っ越し方法を紹介する。

注記:「ゾーンデータの引っ越し」のみを対象とし、レジストラー関連(ネームサーバー変更申請)、他は対象外とする。

“DNS as Code”とは

DNS Summer Day 2024

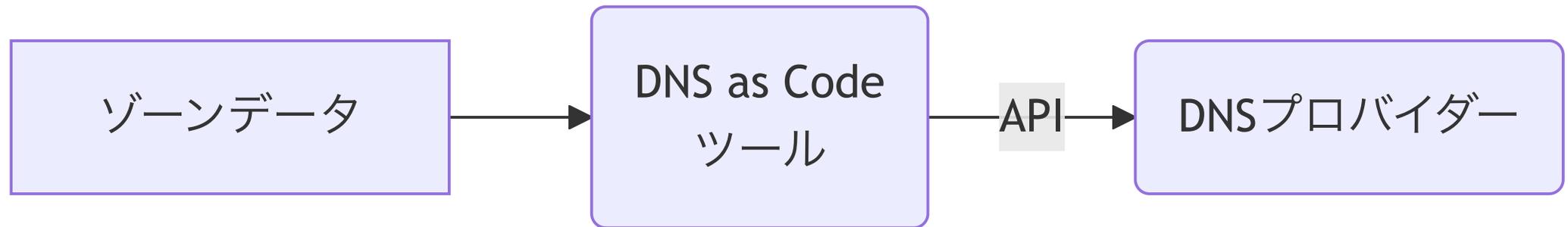
- 『DNS as Code — CI/CDを利用したゾーン運用 —』

DNS as Code — CI/CDを利用したゾーン運用 —

- DNS Summer Day 2024(2024年6月21日)登壇資料
- 所属: さくらインターネット株式会社
- 氏名: 滝澤隆史

“DNS as Code”とは

- Infrastructure as CodeをDNSに特化したもの
- DNSゾーンの状態をコードで定義し、APIによりDNSプロバイダーのゾーンに反映させる

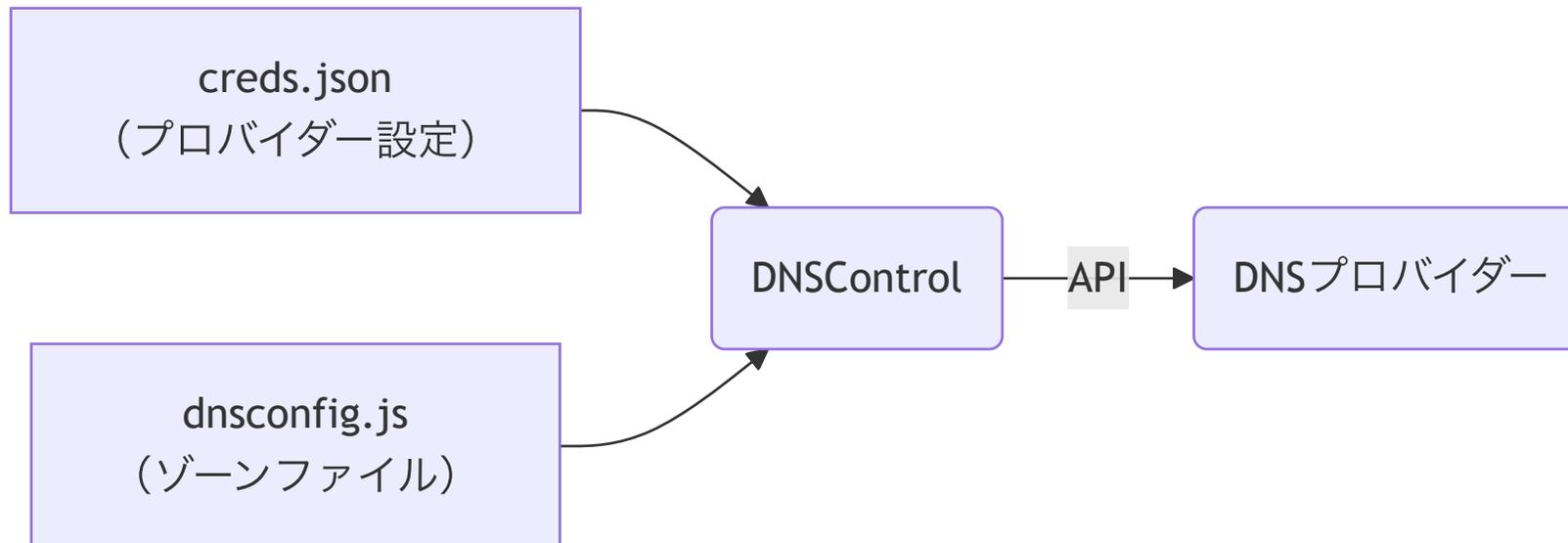


“DNS as Code”の実装

- “DNS as Code”の実装として、複数のDNSプロバイダーに対応したのものには以下のものがある
 - DNSControl
 - octoDNS

DNSControlとは

- Stack Exchange社が開発・保守しているDNSゾーンの保守ツール
- 公式サイト
 - <https://docs.dnscontrol.org/>
- ゾーンファイルをAPIでDNSプロバイダーに反映させる



DNSControlとは

- ゾーンファイル
 - JavaScriptベースのDSL

公式サイト例より

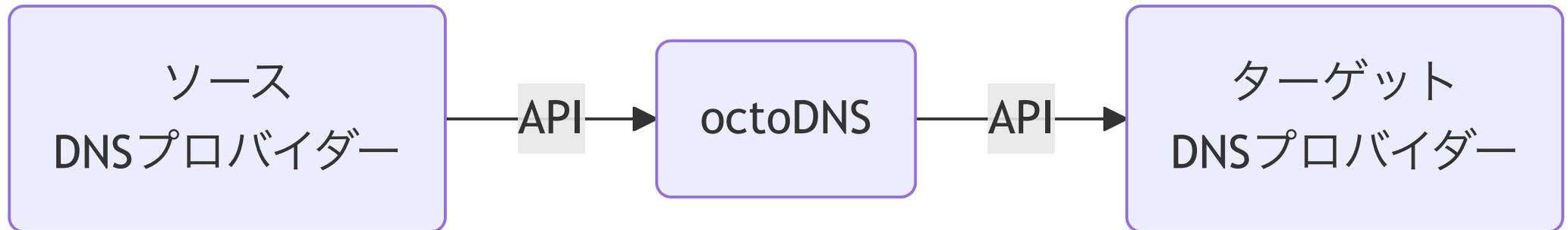
```
D("example.com", REG_MY_PROVIDER, DnsProvider(DSP_MY_PROVIDER),
  A("@", "1.2.3.4"), // The naked or "apex" domain.
  A("server1", "2.3.4.5"),
  AAAA("wide", "2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334"),
  CNAME("www", "server1"),
  CNAME("another", "service.mycloud.com."),
  MX("mail", 10, "mailserver"),
  MX("mail", 20, "mailqueue"),
  TXT("the", "message"),
  NS("department2", "ns1.dnsexample.com."), // use different nameservers
  NS("department2", "ns2.dnsexample.com."), // for department2.example.com
);
```

DNSControlとは

- 実行コマンド
 - DNSプロバイダーからゾーンデータの取得
 - `dnscontrol get-zones`
 - ゾーンデータのDNSプロバイダーへの同期 (dry run)
 - `dnscontrol preview`
 - ゾーンデータのDNSプロバイダーへの同期
 - `dnscontrol push`

octoDNSとは

- GitHub社が開発・保守しているDNSゾーンの保守ツール
- 公式サイト
 - <https://github.com/github/octodns>
- ソースとして指定したDNSプロバイダーのゾーンデータをAPIでターゲットのDNSプロバイダーに反映させる



octoDNSとは

- ゾーンファイル
 - YAML形式
 - 公式サイトの例より

```
---  
'':  
  ttl: 60  
  type: A  
  values:  
    - 1.2.3.4  
    - 1.2.3.5
```

- マスターファイル形式

octoDNSとは

- 実行コマンド
 - ソースプロバイダーからターゲットプロバイダーへの同期 (dry run)
 - `octodns-sync --config-file config.yml`
 - ソースプロバイダーからターゲットプロバイダーへの同期
 - `octodns-sync --config-file config.yml --doit`
- ゾーンファイルを扱うときにはプロバイダーとして次のいずれかを指定する
 - YamlProvider: YAML形式
 - ZoneFileSource: マスターファイル形式

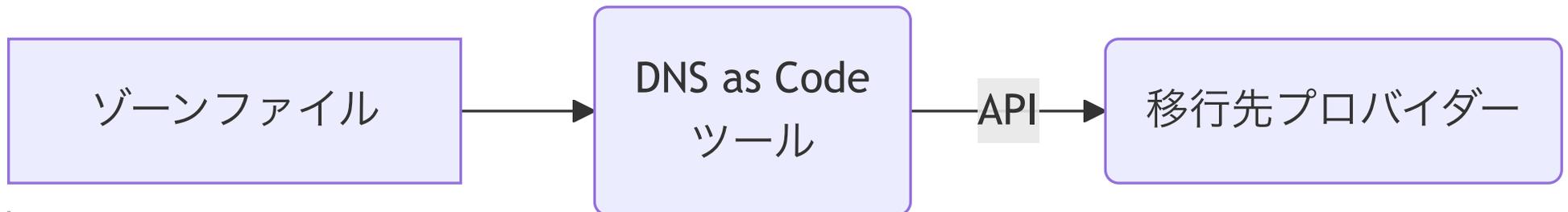
ゾーンデータの引っ越し

ゾーンデータの引っ越しのフロー

- ゾーンファイルを介在する方法
 - i. 移行元プロバイダーからゾーンデータの取得

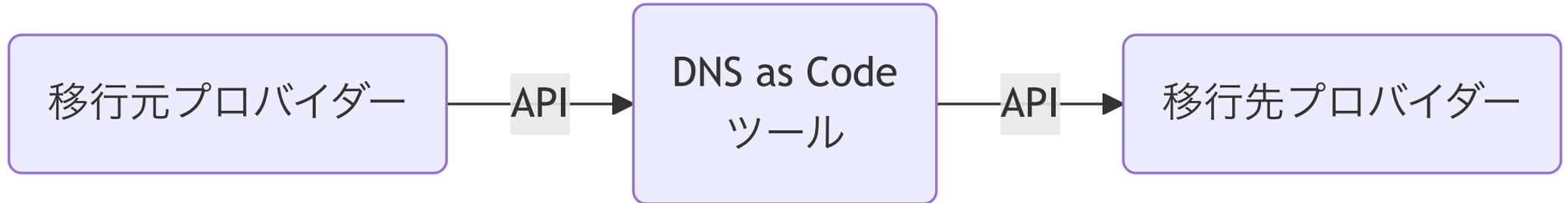


- ii. ゾーンファイルの修正(調整)
- iii. 移行先プロバイダーへのゾーンデータの反映



ゾーン移行のフロー

- ゾーンファイルを介在しない方法(octoDNSのみ)



- 移行元と移行先の権威DNSサーバーは異なるため、別途、ゾーン頂点のNSレコードの処理が必要である
 - octoDNSにはIgnoreRootNsFilterが用意されている

DNSControlとoctoDNSのどちらを使う？

- DNSControlとoctoDNSの2つのツールがあることはわかった
- では、どちらを使えばいいの？
- ゾーンデータの引っ越しに利用する際の特徴をしてみる

DNSControlの特徴

- ゾーンファイル
 - JavaScriptベースの独自のDSL
 - 学習コストが発生
- ゾーン移行
 - ゾーンファイルを介在する必要がある

DNSControlの特徴

- プロバイダーパッケージのRRタイプのサポート
 - HTTPSのような新しめのRRタイプのサポートも行われている
- サポートしていないRRタイプのレコードがあるとき
 - エラーが発生する

octoDNSの特徴

- ゾーンファイル
 - YAMLベースのDSL
 - 学習コストが発生
 - 公式文書の説明不足
 - マスターファイル形式
 - 学習コストは不要
- ゾーン移行
 - ゾーンファイルを介在せずに移行することもできる

octoDNSの特徴

- プロバイダーモジュールのRRタイプのサポート
 - HTTPSのような新しめのRRタイプのサポートはほとんど行われていない
- サポートしていないRRタイプのレコードがあるとき
 - ソースプロバイダー
 - 無視される(エラーは発生しない)
 - ターゲットプロバイダー
 - 設定 `strict_supports: true` の場合:エラーが発生する
 - 設定 `strict_supports: false` の場合:ワーニングが出力される

DNSControlとoctoDNSのどちらを使う？

- DNSControl
 - HTTPSのような新しめのRRタイプを利用している場合
 - JavaScriptベースのDSLに抵抗感がない場合
- octoDNS
 - HTTPSのような新しめのRRタイプを利用していない場合
 - マスターファイル形式のゾーンファイルを使いたい場合

ゾーンデータの引っ越し作業の注意点

APIキー

- DNSControlやoctoDNSではDNSプロバイダーのAPIキーを利用する
- APIキーの権限
 - リソースレコードの作成・変更・削除の権限が必要である
 - ゾーンを作成するときには、ゾーンを作成する権限が必要である
 - ゾーンを作成する権限が付与できない
 - DNSプロバイダーのウェブコンソールからゾーンを作成する

ゾーンの作成がツールからできない

- DNSプロバイダーによってはツールからゾーンの作成ができない
 - DNSプロバイダーのウェブコンソールからゾーンを作成する

利用できないRRタイプがある

- DNSプロバイダー側の制約
 - DNSプロバイダーがそもそも対応していない
- ツール側の制約
 - DNSプロバイダーは対応しているけど、ツールのプロバイダーモジュールが対応していない
- 特にHTTPSやSVCBのような新しめのRRタイプへの対応が異なる
 - octoDNSはほとんど対応していない
- 実際に利用するプロバイダーおよびツールのモジュールに対するサポート状況を確認する

SOAとゾーン頂点のNSが取得・更新できない

- DNSプロバイダーによってはSOAとゾーン頂点のNSがプロバイダーにより決められたものに固定されていて、取得・更新できない
 - ゾーンを引っ越しすると権威ネームサーバーは変更になるので、移行先のDNSプロバイダーの指示に従う
- 実際に利用するプロバイダーおよびツールのモジュールに対するサポート状況を確認する必要がある

確認方法: DNSControl

- 公式サイトのSupported providersを確認する
Provider API

Provider name	Concurrency Verified	dual host	create-domains	get-zones
AKAMAIEDGEDNS	?	✓	✓	✓
AUTODNS	✓	✗	✗	✓

- ”dual host”はNSレコードを登録できることを示す
- ”create-domains”はゾーンの作成ができることを示す

確認方法: octoDNS

- [GitHubのプロバイダーモジュール](#)のリポジトリのページを確認する

Support Information

Records

A, AAAA, CAA, CNAME, DS, MX, NAPTR, NS, PTR, SPF, SRV, TXT

Root NS Records

Route53Provider supports full root NS record management.

- ツールからゾーンの作成可能かは記載がないため、試すしかない

リソースレコードに制約がある

- DNSプロバイダーによってはOWNERやRDATAに制約がある
 - 制約が起因と思われるAPIのエラーが発生したら、DNSプロバイダーのドキュメントを確認する

DNSプロバイダーによってAPIによる更新方法が異なる

- ゾーン一括で更新
- RRsetごとに更新
 - →更新対象のレコード数が多いと更新に時間がかかる
 - レートリミットを回避するため1秒ごとにリクエストを送ると1000レコードを更新するのに約1000秒かかる

ゾーンデータの引っ越しの例

ゾーンデータの引っ越しの例

- ツール:DNSControl
- 移行元:Amazon Route 53
- 移行先:さくらのクラウド DNS

デモを実演したいところだが、PCや通信環境の状況により失敗するリスクがあるので、実際に実行したコマンドを掲載する。

※octoDNSの例はおまけに記載しているので、興味がありましたら資料をダウンロードしてご確認ください。

DNSControlのインストール

- 公式サイトOverviewのページに記載の方法のいずれかでインストールする
 - <https://docs.dnscontrol.org/getting-started/getting-started>
 - Homebrew, Docker, GitHub releases, go install

設定ファイルの作成

- プロバイダーの設定ファイルcreds.jsonを作成する

```
{
  "route53": {
    "TYPE": "ROUTE53",
    "KeyId": "$AWS_ACCESS_KEY_ID",
    "SecretKey": "$AWS_SECRET_ACCESS_KEY"
  },
  "sakuracloud": {
    "TYPE": "SAKURACLOUD",
    "access_token": "$SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN",
    "access_token_secret": "$SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN_SECRET"
  }
}
```

※ \$で始まる文字列は環境変数から読み取ることを意味する

認証を確認する

- 認証情報を環境変数に設定する
- 認証情報が正しい確認する

```
dnscontrol check-creds <credkey>
```

- 実行例

```
$ dnscontrol check-creds route53  
pint.dnsbeer.com      ←移行元のゾーン名一覧が出力される  
bottle.dnsbeer.com
```

```
$ dnscontrol check-creds sakuracloud  
                        ←移行先のゾーン名一覧が出力される  
                        (何もなければ出力されない)
```

移行元ゾーンの確認

- SOAレコードとNSレコード以外には3個のリソースレコードがある

The screenshot shows the AWS Route 53 console for the hosted zone `pint.dnsbeer.com`. The "Records (5)" tab is selected, displaying a table of DNS records. The records are as follows:

Record name	Type	Routin...	Differ...	Alias	Value/Route traffic to	TTL (s...)
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	NS	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ns-710.awsdns-24.net. ns-113.awsdns-14.com. ns-1225.awsdns-25.org.	172800
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	SOA	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ...	900
<input type="checkbox"/> pale-ale.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.1	3600
<input type="checkbox"/> pilsner.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.2	3600
<input type="checkbox"/> porter.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.3	3600

移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

- 移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

```
dnscontrol get-zones --format=js --out=dnsconfig.js <credkey> - <zone> ...
```

- `--format=js` を指定するとDNSControlのゾーンファイルの形式になる
- `dnsconfig.js` はゾーンファイルのデフォルトのファイル名

- 実行例

```
$ dnscontrol get-zones --format=js --out=dnsconfig.js route53 - pint.dnsbeer.com
```

- ※全ゾーンを一括で取得するときにはゾーン名に `all` を指定する

dnsconfig.jsの確認

```
// generated by get-zones. This is 'a decent first draft' and requires editing.

var DSP_ROUTE53 = NewDnsProvider("route53");
var REG_CHANGEME = NewRegistrar("none");

D("pint.dnsbeer.com", REG_CHANGEME,
  DnsProvider(DSP_ROUTE53),
  DefaultTTL(3600),
  //NAMESERVER("ns-2003.awsdns-58.co.uk."),
  //NAMESERVER("ns-710.awsdns-24.net."),
  //NAMESERVER("ns-113.awsdns-14.com."),
  //NAMESERVER("ns-1225.awsdns-25.org."),
  A("pale-ale", "192.0.2.1"),
  A("pilsner", "192.0.2.2"),
  A("porter", "192.0.2.3"),
);
```

dnsconfig.jsの修正

```
var DSP_SAKURACLOUD = NewDnsProvider("sakuracloud");
var REG_CHANGEME = NewRegistrar("none");

D("pint.dnsbeer.com", REG_CHANGEME,
  DnsProvider(DSP_SAKURACLOUD),
  DefaultTTL(3600),
  A("pale-ale", "192.0.2.1"),
  A("pilsner", "192.0.2.2"),
  A("porter", "192.0.2.3"),
);
```

- NewDnsProvider() の引数を移行先の sakuracloud に書き換え
- DSP_ROUTE53 を移行先の DSP_SAKURACLOUD に書き換え
- NAMESERVER を削除あるいは変更(移行先のNSレコードがわかっていると
きにはそれを指定する)

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- ゾーンデータを移行先に反映する(dry run)

```
dnscontrol preview
```

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- 実行例

```
$ dnscontrol preview
***** Domain: pint.dnsbeer.com
1 correction (sakuracloud)
#1: Ensuring zone "pint.dnsbeer.com" exists in "sakuracloud"
Adding zone for pint.dnsbeer.com to Sakura Cloud account
SUCCESS!
CONCURRENTLY gathering 0 zone(s)
SERIALLY gathering 1 zone(s)
Serially Gathering: "pint.dnsbeer.com"
***** Domain: pint.dnsbeer.com
3 corrections (sakuracloud)
#1: + CREATE pale-ale.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.1 ttl=3600
+ CREATE pilsner.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.2 ttl=3600
+ CREATE porter.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.3 ttl=3600
Done. 4 corrections.
```

このとき、ゾーンの作成は実際に行われる

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- 移行先プロバイダーがゾーン頂点のNSレコードを変更できる場合、NSレコードに対して `± MODIFY-TTL`、`MODIFY`、`DELETE` が出力されることがある

```
#1: ± MODIFY-TTL pint.dnsbeer.com NS ns01.example.org. ttl=(172800->300)
± MODIFY-TTL pint.dnsbeer.com NS ns02.example.org. ttl=(172800->300)
```

- このまま、反映するとNSレコードの値が変更されるため、`dnsconfig.js`の修正が必要である

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- 先の出力に基づき、`NAMESERVER_TTL` と `NAMESERVER` を追記する

```
var DSP_SAKURACLOUD = NewDnsProvider("sakuracloud");
var REG_CHANGEME = NewRegistrar("none");

D("pint.dnsbeer.com", REG_CHANGEME,
  DnsProvider(DSP_SAKURACLOUD),
  DefaultTTL(3600),
  NAMESERVER_TTL("172800"),
  NAMESERVER("ns01.example.org."),
  NAMESERVER("ns02.example.org."),
  A("pale-ale", "192.0.2.1"),
  A("pilsner", "192.0.2.2"),
  A("porter", "192.0.2.3"),
);
```

- 再度、`dnscontrol preview` を実行し、NSレコードの変更が出力されないことを確認する

ゾーンデータを移行先に反映

- ゾーンデータを移行先に反映する

```
dnscontrol push
```

ゾーンデータを移行先に反映

- 実行例

```
$ dnscontrol push
CONCURRENTLY gathering 0 zone(s)
SERIALLY gathering 1 zone(s)
Serially Gathering: "pint.dnsbeer.com"
***** Domain: pint.dnsbeer.com
3 corrections (sakuracloud)
# 1: + CREATE pale-ale.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.1 ttl=3600
- CREATE pilsner.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.2 ttl=3600
- CREATE porter.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.3 ttl=3600
SUCCESS!
Done. 3 corrections.
```

- 3個のリソースレコードが作成された

移行先ゾーンの確認

- 3個のリソースレコードがある
- NSとSOAは、固定であり編集できないため、一覧にはない

DNSゾーン » pint.dnsbeer.com  インポート  エクスポート  反映  DNSを削除

 情報  リソースレコード

リソースレコードは最大2000個まで追加できます ×

<input type="checkbox"/>	#	名前	タイプ	値	TTL		
<input type="checkbox"/>	1	pale-ale	A	192.0.2.1	3600 (デフォルト値)		
<input type="checkbox"/>	2	pilsner	A	192.0.2.2	3600 (デフォルト値)		
<input type="checkbox"/>	3	porter	A	192.0.2.3	3600 (デフォルト値)		

ゾーンデータの検証

- DNSプロバイダーのウェブコンソールからゾーンに登録されているレコード数が同じであることを確認してみる
 - このとき、NSとSOAを除いた数を比較する
 - DNSプロバイダーによってはRRsetが1個扱いになっていることもあるため、この方法は確実ではない
 - リソースレコードがすべて同じであることは確認できていない

ゾーンデータの検証

- 移行元・移行先からマスターファイル形式でゾーンデータを取得する

```
$ dnscontrol get-zones --format=zone \  
  route53 - pint.dnsbeer.com | \  
  grep -vE '^(@|\s).+ (NS|SOA) ' > route53-pint.dnsbeer.com.zone  
$ dnscontrol get-zones --format=zone \  
  sakuracloud - pint.dnsbeer.com | \  
  grep -vE '^(@|\s).+ (NS|SOA) ' > sakuracloud-pint.dnsbeer.com.zone
```

- このとき、ゾーン頂点に対するNSレコードとSOALレコードを除外する

ゾーンデータの検証

- ソート結果を比較する

```
$ diff -u <(sort route53-pint.dnsbeer.com.zone) \  
          <(sort sakuracloud-pint.dnsbeer.com.zone)  
(出力なし)
```

- 意図しない差分がなければゾーンデータは同じであると判断できる

まとめ

まとめ

- “DNS as Code”のツールDNSControlやoctoDNSを利用したゾーンデータの引っ越し方法を紹介した

おまけ

おまけ

- octoDNSを利用した移行例(ゾーンファイルを介在する方法)
- octoDNSを利用した移行例(ゾーンファイルを介在しない方法)
- DNSControlでマスターファイル形式のゾーンファイルの利用例

octoDNSを利用した移行例 (ゾーンファイルを介在する方法)

octoDNSのインストール

1. Pythonの仮想環境を作成して有効にする

```
$ python3 -m venv .venv  
$ source ./venv/bin/activate
```

2. octoDNSをインストールする

```
$ pip3 install octodns
```

3. 移行元と移行先のプロバイダーモジュールをインストールする

```
$ pip3 install octodns-route53 octodns-sakuracloud  
$ pip3 install octodns-bind ←ゾーンファイルを扱うため
```

ゾーンファイルを格納するディレクトリの作成

- ゾーンファイルを格納するディレクトリを作成する

```
$ mkdir zones
```

設定ファイルの作成

- 設定ファイルconfig.ymlを作成する
- プロバイダー情報を providers に定義する

```
providers:  
  route53:  
    class: octodns_route53.Route53Provider  
    access_key_id: env/AWS_ACCESS_KEY_ID  
    secret_access_key: env/AWS_SECRET_ACCESS_KEY  
  sakuracloud:  
    class: octodns_sakuracloud.SakuraCloudProvider  
    access_token: env/SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN  
    access_token_secret: env/SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN_SECRET  
  zonefile:  
    class: octodns_bind.ZoneFileSource  
    directory: ./zones  
    file_extension: .zone  
    check_origin: false
```

設定ファイルの作成

- 移行元プロバイダーからゾーンデータを取得するためのゾーンの情報を `zones` に定義する

```
zones:  
  pint.dnsbeer.com.:  
    sources:  
      - route53  
    targets:  
      - zonefile
```

- 設定ファイルを検査する

```
octodns-validate --config-file config.yml
```

移行元ゾーンの確認

- SOAレコードとNSレコード以外には3個のリソースレコードがある

The screenshot shows the AWS Route 53 console for the hosted zone `pint.dnsbeer.com`. The `Records (5)` tab is selected, displaying a table of DNS records. The records are as follows:

Record name	Type	Routin...	Differ...	Alias	Value/Route traffic to	TTL (s...)
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	NS	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ns-710.awsdns-24.net. ns-113.awsdns-14.com. ns-1225.awsdns-25.org.	172800
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	SOA	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ...	900
<input type="checkbox"/> pale-ale.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.1	3600
<input type="checkbox"/> pilsner.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.2	3600
<input type="checkbox"/> porter.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.3	3600

移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

- 認証情報を環境変数に設定する
- 移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

```
octodns-sync --config-file config.yml --doit
```

移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

- 実行例

```
(.venv) $ octodns-sync --config-file config.yml
略
*****
* pint.dnsbeer.com.
*****
* zonefile (ZoneFileProvider)
*   Create Zone<pint.dnsbeer.com.>
*   Create <NsRecord NS 172800, pint.dnsbeer.com., [...]> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, pale-ale.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.1']> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, pilsner.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.2']> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, porter.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.3']> (route53)
*   Summary: Creates=4, Updates=0, Deletes=0, Existing=0, Meta=False
*****

2025-06-18T22:15:04 [8428625664] INFO ZoneFileProvider[zonefile] apply: making
4 changes to pint.dnsbeer.com.
2025-06-18T22:15:04 [8428625664] INFO Manager sync: 4 total changes
```

ゾーンファイルの確認

- ゾーンファイルが `zones/pint.dnsbeer.com.zone` に作成されるので確認する

```
$ORIGIN pint.dnsbeer.com.  
  
@ 3600 IN SOA ns-113.awsdns-14.com. webmaster.pint.dnsbeer.com. (  
    1750252504 ; Serial  
    3600 ; Refresh  
    600 ; Retry  
    604800 ; Expire  
    3600 ; NXDOMAIN ttl  
)  
  
; Name: pint.dnsbeer.com.  
@           172800 IN NS      ns-113.awsdns-14.com.  
           172800 IN NS      ns-1225.awsdns-25.org.  
           172800 IN NS      ns-2003.awsdns-58.co.uk.  
           172800 IN NS      ns-710.awsdns-24.net.  
pale-ale    3600 IN A        192.0.2.1  
pilsner     3600 IN A        192.0.2.2  
porter      3600 IN A        192.0.2.3
```

ゾーンファイルの修正

```
$ORIGIN pint.dnsbeer.com.
```

```
pale-ale      3600 IN A      192.0.2.1  
pilsner       3600 IN A      192.0.2.2  
porter        3600 IN A      192.0.2.3
```

- SOAレコードを削除(移行先はSOAレコードを変更できないため)
- NSレコードを削除(移行先はNSレコードを変更できないため)

設定ファイルの修正

- ゾーンファイルを移行先プロバイダーに同期するためのゾーンの設定に書き換える

```
zones:  
  pint.dnsbeer.com.:  
    sources:  
      - zonefile  
    targets:  
      - sakuracloud
```

- 設定ファイルを検査する

```
octodns-validate --config-file config.yml
```

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- ゾーンデータを移行先に反映する(dry run)

```
octodns-sync --config-file config.yml
```

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- 実行例

```
(.venv) $ octodns-sync --config-file config.yml
略
*****
* pint.dnsbeer.com.
*****
* sakuracloud (SakuraCloudProvider)
*   Create Zone<pint.dnsbeer.com.>
*   Create <ARecord A 3600, pale-ale.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.1']> ()
*   Create <ARecord A 3600, pilsner.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.2']> ()
*   Create <ARecord A 3600, porter.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.3']> ()
*   Summary: Creates=3, Updates=0, Deletes=0, Existing=0, Meta=False
*****
```

ゾーンデータを移行先に反映

- ゾーンデータを移行先に反映する

```
octodns-sync --config-file config.yml --doit
```

ゾーンデータを移行先に反映

- 実行例

```
(.venv) $ octodns-sync --config-file config.yml --doit
略
*****
* pint.dnsbeer.com.
*****
* sakuracloud (SakuraCloudProvider)
*   Create Zone<pint.dnsbeer.com.>
*   Create <ARecord A 3600, pale-ale.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.1']> ()
*   Create <ARecord A 3600, pilsner.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.2']> ()
*   Create <ARecord A 3600, porter.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.3']> ()
*   Summary: Creates=3, Updates=0, Deletes=0, Existing=0, Meta=False
*****

2025-06-18T22:24:29 [8428625664] INFO  SakuraCloudProvider[sakuracloud] apply:
making 3 changes to pint.dnsbeer.com.
2025-06-18T22:24:33 [8428625664] INFO  Manager sync:      3 total changes
```

移行先ゾーンの確認

- 3個のリソースレコードがある
- NSとSOAは、固定であり編集できないため、一覧にはない

DNSゾーン » pint.dnsbeer.com  インポート  エクスポート  反映  DNSを削除

 情報

 リソースレコード

リソースレコードは最大2000個まで追加できます ×

<input type="checkbox"/>	#	名前	タイプ	値	TTL		
<input type="checkbox"/>	1	pale-ale	A	192.0.2.1	3600 (デフォルト値)		
<input type="checkbox"/>	2	pilsner	A	192.0.2.2	3600 (デフォルト値)		
<input type="checkbox"/>	3	porter	A	192.0.2.3	3600 (デフォルト値)		

ゾーンデータの検証

- ゾーンデータを検証する

```
octodns-compare --config-file config.yml --a SOURCE --b TARGET --zone ZONE
```

- 実行例

```
(.venv) $ octodns-compare --config-file config.yml --a route53 \  
--b sakuracloud --zone pint.dnsbeer.com.
```

略

```
[Create <NsRecord NS 172800, pint.dnsbeer.com., [...]> (route53)]
```

- 意図しない差分がなければゾーンデータは同じであると判断できる
 - NSレコードは意図した差分なので無視する

octoDNSを利用した移行例 (ゾーンファイルを介在しない方法)

octoDNSのインストール

1. Pythonの仮想環境を作成して有効にする

```
$ python3 -m venv .venv  
$ source ./venv/bin/activate
```

2. octoDNSをインストールする

```
$ pip3 install octodns
```

3. 移行元と移行先のプロバイダーモジュールをインストールする

```
$ pip3 install octodns-route53 octodns-sakuracloud
```

設定ファイルの作成

- 設定ファイルconfig.ymlを作成する
- ゾーン頂点のNSレコードを移行しないので processors に IgnoreRootNsFilterを定義する

```
processors:  
  no-root-ns:  
    class: octodns.processor.filter.IgnoreRootNsFilter
```

設定ファイルの作成

- プロバイダー情報を `providers` に定義する

```
providers:  
  route53:  
    class: octodns_route53.Route53Provider  
    access_key_id: env/AWS_ACCESS_KEY_ID  
    secret_access_key: env/AWS_SECRET_ACCESS_KEY  
  sakuracloud:  
    class: octodns_sakuracloud.SakuraCloudProvider  
    access_token: env/SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN  
    access_token_secret: env/SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN_SECRET
```

- `env/` は環境変数から読み取ることを意味する

設定ファイルの作成

- 移行元プロバイダーからゾーンデータを取得するためのゾーンの情報を `zones` に定義する

```
zones:  
  pint.dnsbeer.com.:  
    sources:  
      - route53  
    processors:  
      - no-root-ns  
    targets:  
      - sakuracloud
```

- 設定ファイルを検査する

```
octodns-validate --config-file config.yml
```

移行元ゾーンの確認

- SOAレコードとNSレコード以外には3個のリソースレコードがある

The screenshot shows the AWS Route 53 console for the hosted zone `pint.dnsbeer.com`. The "Records (5)" tab is selected, displaying a table of DNS records. The records are as follows:

Record name	Type	Routin...	Differ...	Alias	Value/Route traffic to	TTL (s...)
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	NS	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ns-710.awsdns-24.net. ns-113.awsdns-14.com. ns-1225.awsdns-25.org.	172800
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	SOA	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ...	900
<input type="checkbox"/> pale-ale.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.1	3600
<input type="checkbox"/> pilsner.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.2	3600
<input type="checkbox"/> porter.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.3	3600

ゾーンデータの移行(dry run)

- 認証情報を環境変数に設定する
- ゾーンデータを移行する(dry run)

```
octodns-sync --config-file config.yml
```

ゾーンデータの移行(dry run)

- 実行例

```
(.venv) $ octodns-sync --config-file config.yml
略
*****
* pint.dnsbeer.com.
*****
* sakuracloud (SakuraCloudProvider)
*   Create Zone<pint.dnsbeer.com.>
*   Create <ARecord A 3600, pale-ale.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.1']> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, pilsner.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.2']> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, porter.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.3']> (route53)
*   Summary: Creates=3, Updates=0, Deletes=0, Existing=0, Meta=False
*****
```

ゾーンデータの移行

- 認証情報を環境変数に設定する
- ゾーンデータを移行する(dry run)

```
octodns-sync --config-file config.yml --doit
```

ゾーンデータの移行

- 実行例

```
(.venv) taki@x-wing octodns % octodns-sync --config-file config.yml --doit
略
*****
* pint.dnsbeer.com.
*****
* sakuracloud (SakuraCloudProvider)
*   Create Zone<pint.dnsbeer.com.>
*   Create <ARecord A 3600, pale-ale.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.1']> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, pilsner.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.2']> (route53)
*   Create <ARecord A 3600, porter.pint.dnsbeer.com., ['192.0.2.3']> (route53)
*   Summary: Creates=3, Updates=0, Deletes=0, Existing=0, Meta=False
*****

2025-06-19T20:10:54 [8428625664] INFO   SakuraCloudProvider[sakuracloud] apply:
making 3 changes to pint.dnsbeer.com.
2025-06-19T20:10:58 [8428625664] INFO   Manager sync:    3 total changes
```

移行先ゾーンの確認

- 3個のリソースレコードがある
- NSとSOAは、固定であり編集できないため、一覧にはない

DNSゾーン » pint.dnsbeer.com  インポート  エクスポート  反映  DNSを削除

 情報

 リソースレコード

リソースレコードは最大2000個まで追加できます ×



#

名前

タイプ

値

TTL



1

pale-ale

A

192.0.2.1

3600 (デフォルト値)



2

pilsner

A

192.0.2.2

3600 (デフォルト値)



3

porter

A

192.0.2.3

3600 (デフォルト値)



ゾーンデータの検証

- ゾーンデータを検証する

```
octodns-compare --config-file config.yml --a SOURCE --b TARGET --zone ZONE
```

- 実行例

```
(.venv) $ octodns-compare --config-file config.yml --a route53 \  
--b sakuracloud --zone pint.dnsbeer.com.
```

略

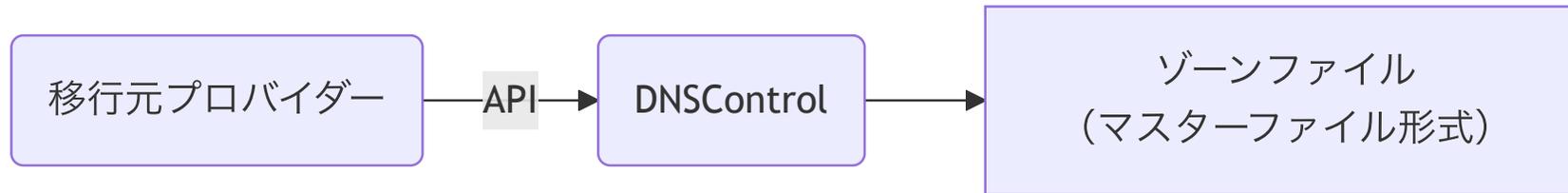
```
[Create <NsRecord NS 172800, pint.dnsbeer.com., [...]> (route53)]
```

- 意図しない差分がなければゾーンデータは同じであると判断できる
 - NSレコードは意図した差分なので無視する

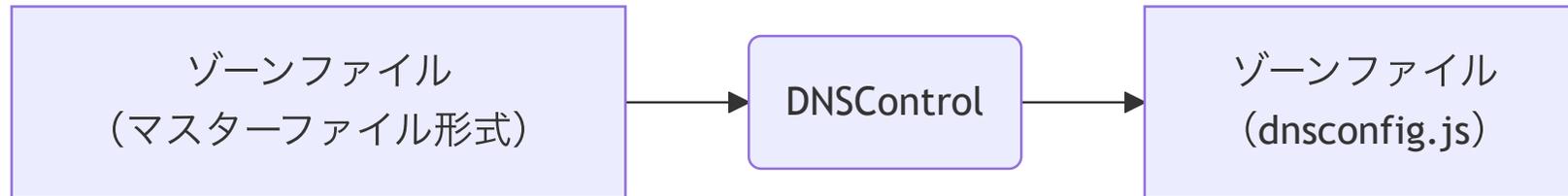
DNSControlでマスターファイル形式 のゾーンファイルの利用例

ゾーン移行のフロー

1. 移行元プロバイダーからマスターファイル形式のゾーンファイルを生成する



2. マスターファイル形式のゾーンファイルからdnsconfig.jsを生成する



3. dnsconfig.jsの内容を移行先プロバイダーに反映する



ゾーンファイルを格納するディレクトリの作成

- ゾーンファイルを格納するディレクトリを作成する

```
$ mkdir zones
```

設定ファイルの作成

- プロバイダーの設定ファイルcreds.jsonを作成する

```
{
  "route53": {
    "TYPE": "ROUTE53",
    "KeyId": "$AWS_ACCESS_KEY_ID",
    "SecretKey": "$AWS_SECRET_ACCESS_KEY"
  },
  "sakuracloud": {
    "TYPE": "SAKURACLOUD",
    "access_token": "$SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN",
    "access_token_secret": "$SAKURACLOUD_ACCESS_TOKEN_SECRET"
  },
  "bind": {
    "TYPE": "BIND",
    "directory": "zones"
  }
}
```

認証を確認する

- 認証情報を環境変数に設定する
- 認証情報が正しい確認する

```
dnscontrol check-creds <credkey>
```

- 実行例

```
$ dnscontrol check-creds route53  
pint.dnsbeer.com      ←移行元のゾーン名一覧が出力される  
bottle.dnsbeer.com
```

```
$ dnscontrol check-creds sakuracloud  
                        ←移行先のゾーン名一覧が出力される  
                        (何もなければ出力されない)
```

移行元ゾーンの確認

- SOAレコードとNSレコード以外には3個のリソースレコードがある

The screenshot shows the AWS Route 53 console for the hosted zone `pint.dnsbeer.com`. The 'Records (5)' tab is active, displaying a table of DNS records. The records are as follows:

Record name	Type	Routin...	Differ...	Alias	Value/Route traffic to	TTL (s...)
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	NS	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ns-710.awsdns-24.net. ns-113.awsdns-14.com. ns-1225.awsdns-25.org.	172800
<input type="checkbox"/> pint.dnsbeer.com	SOA	Simple	-	No	ns-2003.awsdns-58.co.uk. ...	900
<input type="checkbox"/> pale-ale.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.1	3600
<input type="checkbox"/> pilsner.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.2	3600
<input type="checkbox"/> porter.pint.dnsbeer.com	A	Simple	-	No	192.0.2.3	3600

移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

- 移行元プロバイダーからゾーンデータを取得する

```
dnscontrol get-zones --format=zone --out=<zonefile> <credkey> - <zone> ...
```

- `--format=zone` を指定するとマスターファイル形式で取得できる

- 実行例

```
$ dnscontrol get-zones --format=zone --out=zones/pint.dnsbeer.com.zone \  
route53 - pint.dnsbeer.com
```

ゾーンファイルの確認

```
$ORIGIN pint.dnsbeer.com.  
$TTL 3600  
@           172800 IN NS      ns-113.awsdns-14.com.  
           172800 IN NS      ns-1225.awsdns-25.org.  
           172800 IN NS      ns-2003.awsdns-58.co.uk.  
           172800 IN NS      ns-710.awsdns-24.net.  
pale-ale    IN A           192.0.2.1  
pilsner     IN A           192.0.2.2  
porter      IN A           192.0.2.3
```

ゾーンファイルの修正

```
$ORIGIN pint.dnsbeer.com.  
$TTL 3600  
pale-ale          IN A      192.0.2.1  
pilsner           IN A      192.0.2.2  
porter            IN A      192.0.2.3
```

- ゾーン頂点のNSレコードを削除

マスターファイルからdnsconfig.jsを生成

- マスターファイルからdnsconfig.jsを生成

```
dnscontrol get-zones --format=js --out=dnsconfig.js bind - <zone> ...
```

- `--format=zone` を指定するとDNSControlの形式で取得できる

- 実行例

```
$ dnscontrol get-zones --format=js --out=dnsconfig.js \  
bind - pint.dnsbeer.com
```

dnsconfig.jsの確認

```
// generated by get-zones. This is 'a decent first draft' and requires editing.  
  
var DSP_BIND = NewDnsProvider("bind");  
var REG_CHANGEME = NewRegistrar("none");  
  
D("pint.dnsbeer.com", REG_CHANGEME,  
  DnsProvider(DSP_BIND),  
  DefaultTTL(3600),  
  A("pale-ale", "192.0.2.1"),  
  A("pilsner", "192.0.2.2"),  
  A("porter", "192.0.2.3"),  
);
```

dnsconfig.jsの修正

```
var DSP_SAKURACLOUD = NewDnsProvider("sakuracloud");
var REG_CHANGEME = NewRegistrar("none");

D("pint.dnsbeer.com", REG_CHANGEME,
  DnsProvider(DSP_SAKURACLOUD),
  DefaultTTL(3600),
  A("pale-ale", "192.0.2.1"),
  A("pilsner", "192.0.2.2"),
  A("porter", "192.0.2.3"),
);
```

- `NewDnsProvider()` の引数を移行先の `sakuracloud` に書き換え
- `DSP_ROUTE53` を移行先の `DSP_SAKURACLOUD` に書き換え

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- ゾーンデータを移行先に反映する(dry run)

```
dnscontrol preview
```

ゾーンデータを移行先に反映(dry run)

- 実行例

```
$ dnscontrol preview
***** Domain: pint.dnsbeer.com
1 correction (sakuracloud)
#1: Ensuring zone "pint.dnsbeer.com" exists in "sakuracloud"
Adding zone for pint.dnsbeer.com to Sakura Cloud account
SUCCESS!
CONCURRENTLY gathering 0 zone(s)
SERIALLY gathering 1 zone(s)
Serially Gathering: "pint.dnsbeer.com"
***** Domain: pint.dnsbeer.com
3 corrections (sakuracloud)
#1: + CREATE pale-ale.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.1 ttl=3600
+ CREATE pilsner.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.2 ttl=3600
+ CREATE porter.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.3 ttl=3600
Done. 4 corrections.
```

ゾーンデータを移行先に反映

- ゾーンデータを移行先に反映する

```
dnscontrol push
```

ゾーンデータを移行先に反映

- 実行例

```
$ dnscontrol push
CONCURRENTLY gathering 0 zone(s)
SERIALLY gathering 1 zone(s)
Serially Gathering: "pint.dnsbeer.com"
***** Domain: pint.dnsbeer.com
3 corrections (sakuracloud)
# 1: + CREATE pale-ale.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.1 ttl=3600
- CREATE pilsner.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.2 ttl=3600
- CREATE porter.pint.dnsbeer.com A 192.0.2.3 ttl=3600
SUCCESS!
Done. 3 corrections.
```

移行先ゾーンの確認

- 3個のリソースレコードがある
- NSとSOAは、固定であり編集できないため、一覧にはない

DNSゾーン » pint.dnsbeer.com  インポート  エクスポート  反映  DNSを削除

 情報  リソースレコード

リソースレコードは最大2000個まで追加できます ×

<input type="checkbox"/>	#	名前	タイプ	値	TTL		
<input type="checkbox"/>	1	pale-ale	A	192.0.2.1	3600 (デフォルト値)		
<input type="checkbox"/>	2	pilsner	A	192.0.2.2	3600 (デフォルト値)		
<input type="checkbox"/>	3	porter	A	192.0.2.3	3600 (デフォルト値)		